

(仮称) 新宿六丁目公園内管理棟及び災害備蓄倉庫の防災機能について

庶務報告 1 (5)
平成 24 年 3 月 22 日

(1) 管理棟

- ◆ 建築面積 615.95㎡
- ◆ 延床面積 524.54㎡
- ◆ 構造 RC+鉄骨造

【避難場所面積及び収容可能人数】

公園整備面積 71,000㎡
 避難有効面積 39,050㎡ (71,000㎡×55%=39,050㎡)
 避難計画人口 38,000人 (1.0㎡/人) 最大収容可能人数
 想定避難場所収容人数 22,800人 (計画人口の60%)

【避難所 (東京理科大学) 収容可能人数】

有効床面積 90,500㎡
 想定避難所収容人数 23,000人

【防災上の基本的な考え方】

・公園と東京理科大学周辺一帯を震災時における避難場所と避難所、また駅前滞留者や帰宅困難者の一時待機所としても活用するため、管理棟に区災害対策本部との情報連絡や避難場所・避難所の管理運営を行う機能を持たせるとともに、かまどハンチ、炊き出し、トイレ、救出・救護などの応急活動に必要な資器材等を整備して、防災活動拠点機能を併せて持たせる。

・最も影響の大きい江戸川ハザードマップによる浸水想定を考慮し、図書館を含めた大学敷地を中心に、最大約1.5mの盛土 (TP+2.7m) を行い、浸水時における応急活動の場とする。

・災害備蓄倉庫、非常用夜間照明 (A街区及びE街区)・非常用発電機 (太陽電池/パネルと併用) など防災性の高い設備を整備する。

・多目的広場を防災ハリポートに活用できるか東京都と協議中。



